

2018 年卒 特別調査

インターンシップに関する調査

キャリアス就活 2018 学生モニター調査結果 (2017 年 3 月発行)

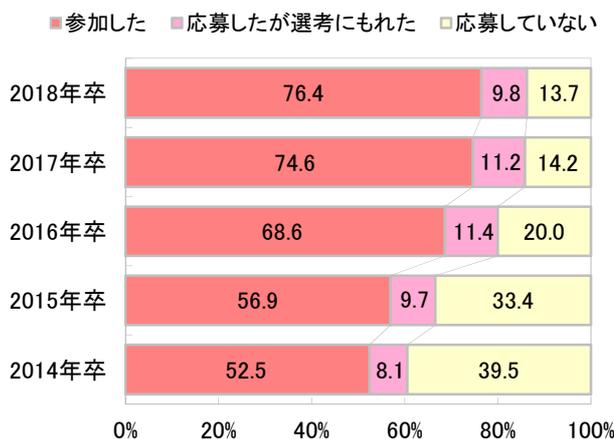
売り手市場が続く中、学生との早期接触の場としてインターンシップを実施する企業が増えている。学生側も強い関心を寄せており、参加経験を持つ学生は 5 年連続で増加した。2018 年卒者の経験率は 7 割強に上る (76.4%)。

参加した学生の意識や満足度はどうだったのか。また、参加後の就職意向はどう変化したのだろうか——。インターンシップ参加経験のある学生を対象に、参加したインターンシップの内容や感想、参加企業への就職志望度などを調査し、インターンシップの影響について分析・考察した。

【主な調査項目】

1. 参加したインターンシップの内容
2. インターンシップの情報を探し始めた時期
3. インターンシップ先を探す際に重視した点
4. インターンシップ参加前後の就職志望度の変化
5. インターンシップ参加企業からの優遇策
6. インターンシップの満足状況
7. インターンシップ参加企業への就職志望度
8. インターンシップ参加企業への就職エントリー状況
9. インターンシップのあり方への意見

インターンシップ参加経験 【参考】



(各年とも 3 年生の 11 月調査より)

調査概要

調査対象 : 2018 年 3 月卒業予定の全国の大学 3 年生 (理系は大学院修士課程 1 年生含む) のうち、1 社以上のインターンシップ参加経験者

回答者数 : 952 人 (文系男子 308 人、文系女子 296 人、理系男子 221 人、理系女子 127 人)

調査方法 : インターネット調査法

調査期間 : 2017 年 3 月 15 日~21 日

サンプリング : キャリタス就活 2018 学生モニター (2016 年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

(注)各プログラムの違い

- 講義タイプ = 業界・企業・仕事についての講義のなかで、その企業の事業内容を理解し、「働く」について学ぶ。
 - 見学&体験タイプ = 実際の職場で業務について説明を受け、仕事を少しだけ体験できる。
 - プロジェクトタイプ = 学生でチームを組み、その企業の事業にかかわる課題に取り組む。
 - 実務・実践タイプ = 各部署に配属され、スタッフの一人として業務を任される。
- ※複数のプログラムを組み合わせる場合には、主なもの 1 つを選択

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

1. 参加したインターンシップの内容

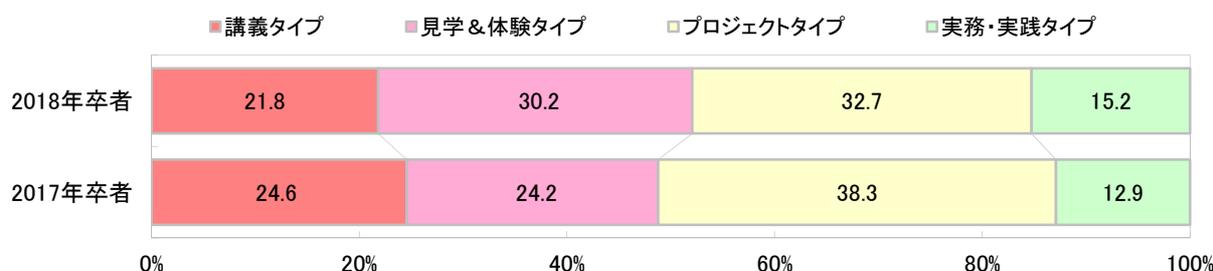
最初に、学生モニターが参加したインターンシップの概要を確認しよう。

まず、参加したプログラムを見ると、最も多いのは「プロジェクトタイプ」(32.7%)だが、前年より5.6ポイント減少。「講義タイプ」も24.6%から21.8%へと割合を下げた。逆に、仕事体験ができる「見学&体験タイプ」は、前年調査(24.2%)より6ポイント増え3割を超えた(30.2%)。職場に配属され業務を任される「実務・実践タイプ」も12.9%から15.2%に増えており、「就業体験」を伴うインターンシップへの参加は、合わせて37.1%から45.4%へと8.3ポイント増加している。

参加期間は「1日」が最も多く3割強(31.1%)。前年調査(27.5%)より3.6ポイント増えた。「半日」(24.3%)も前年調査(20.8%)より3.5ポイント増えており、足し合わせると1日以内のショートプログラムへの参加が半数強(55.4%)を占める。この1年で短期化が進んだ格好だ。

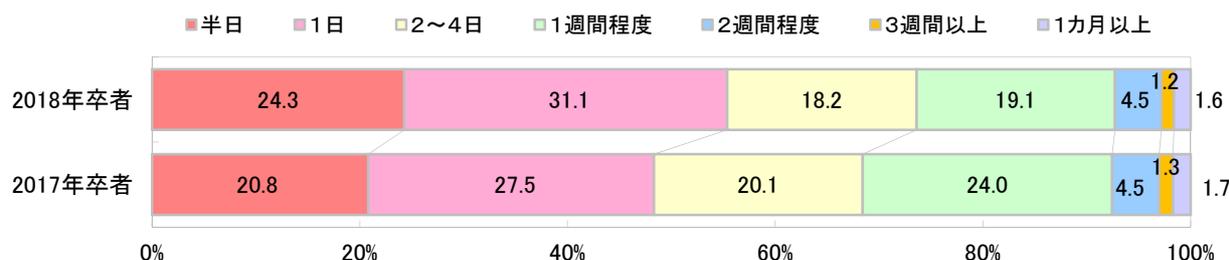
参加時期で最も多いのは「2月」で3割近い(28.4%)。次いで「8月」が18.1%。8月、9月を合わせると3割強(31.6%)に上り、大学の長期休み中の参加がメインであることがわかる。

参加したプログラム

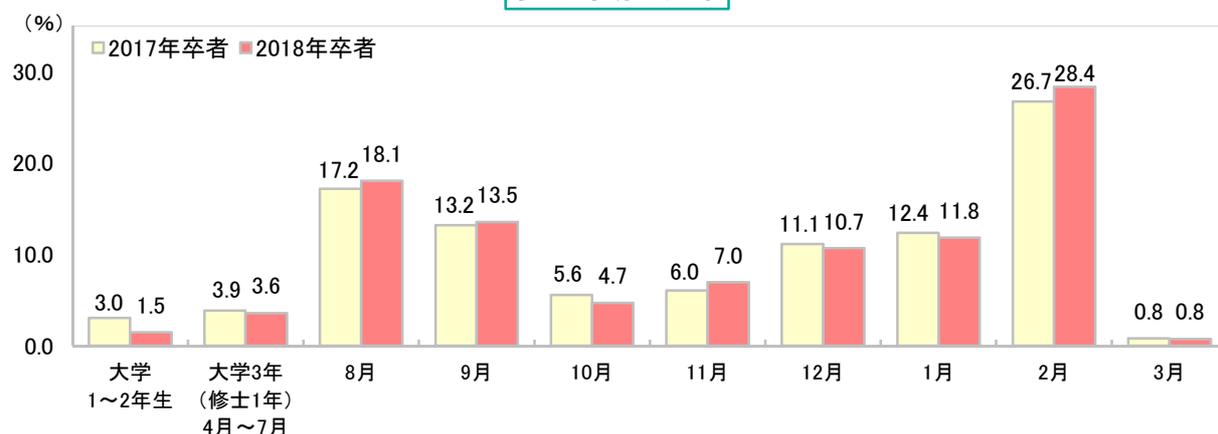


* 合計が100%になるように再集計し、占める割合を算出。以下同じ
* プログラムの違いについては1ページ参照

参加期間



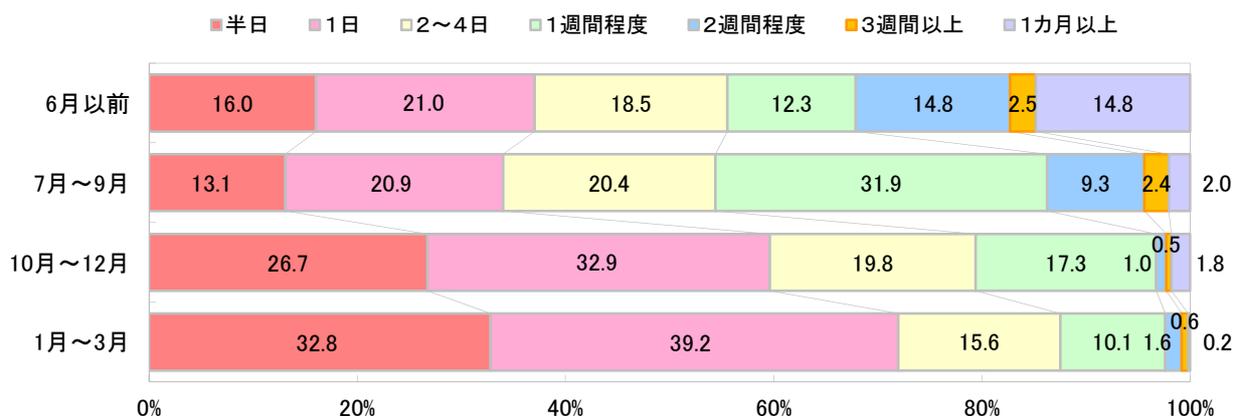
参加時期の分布



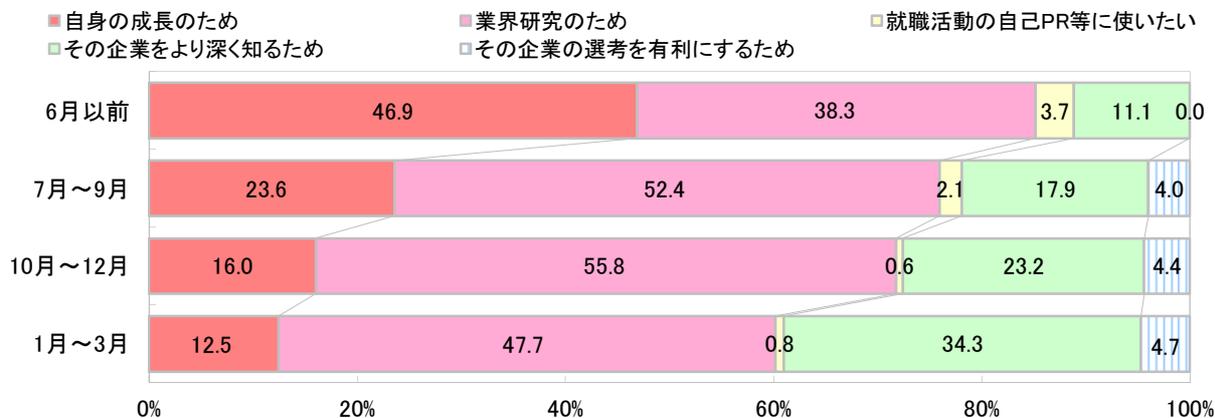
ここで「参加時期」と「参加期間」の関係を調べてみた。9月までは2週間以上のインターンシップへの参加が多いが、10月以降になると「1日」や「半日」の占める割合が急増。1月～3月では1日以内のショートプログラムが7割以上を占める(72.0%)。

「参加時期」を「参加目的」ともクロスしてみると、6月以前は「自身の成長のため」(46.9%)が最も多いが、7月以降は大きく減少。代わりに「その企業をより深く知るため」が増え、1～3月では3割を超える(34.3%)。参加時期によって、インターンシップへの参加目的は変化したことが見て取れる。なお、夏以降は「業界研究」を目的とする学生が半数近くを占める。

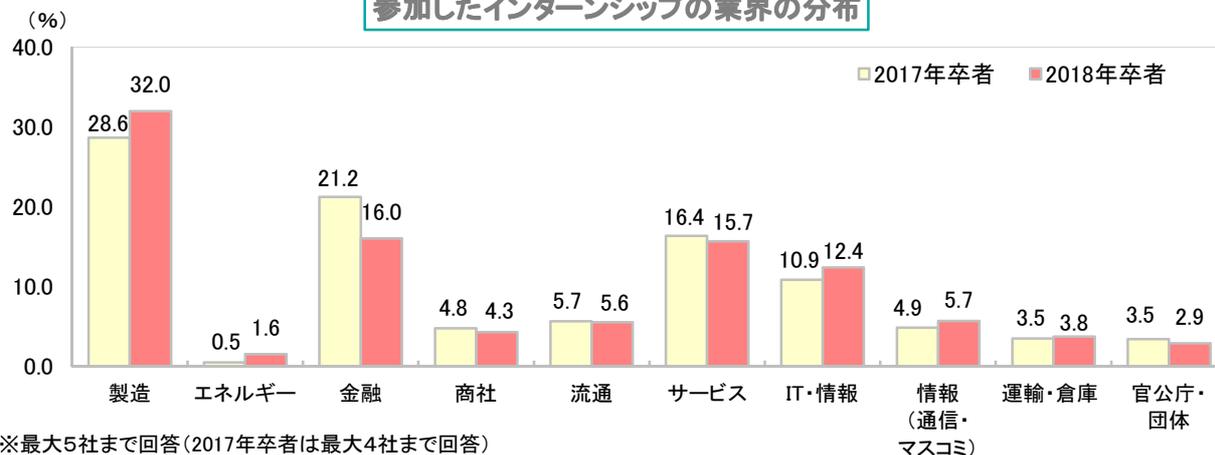
参加期間×参加時期



参加目的×参加時期



参加したインターンシップの業界の分布



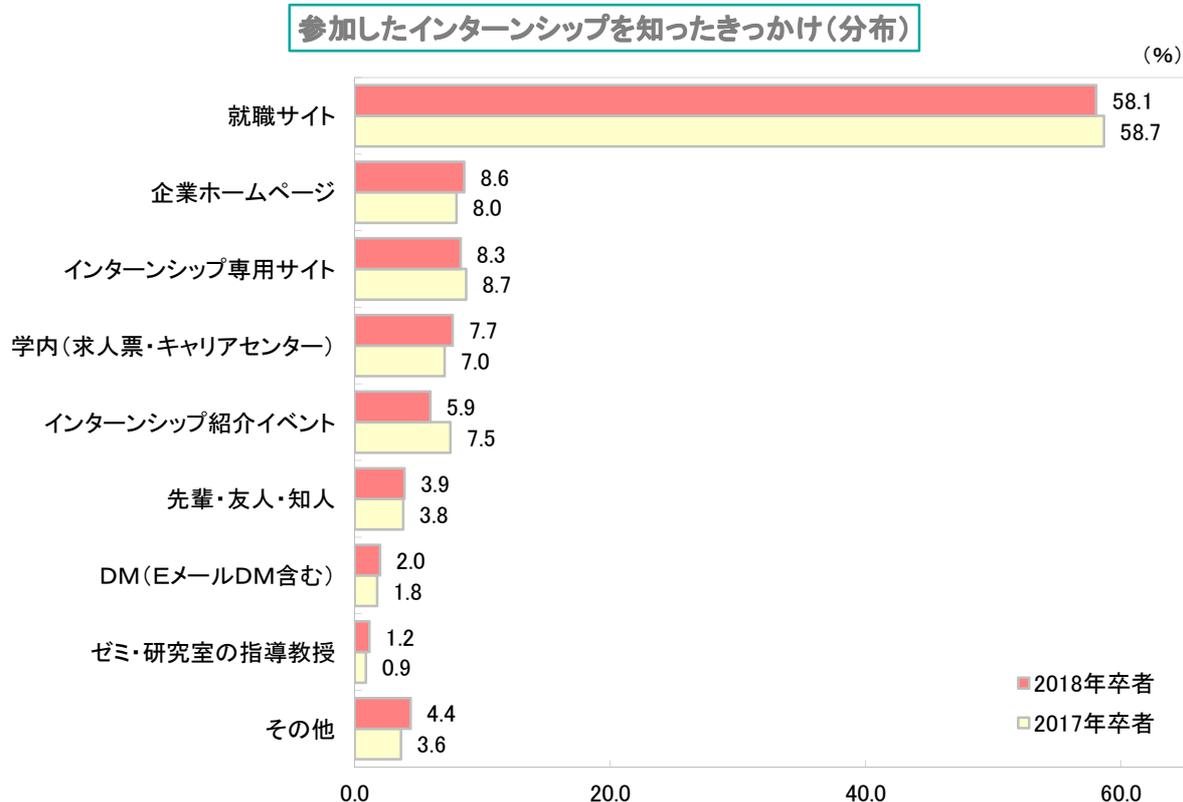
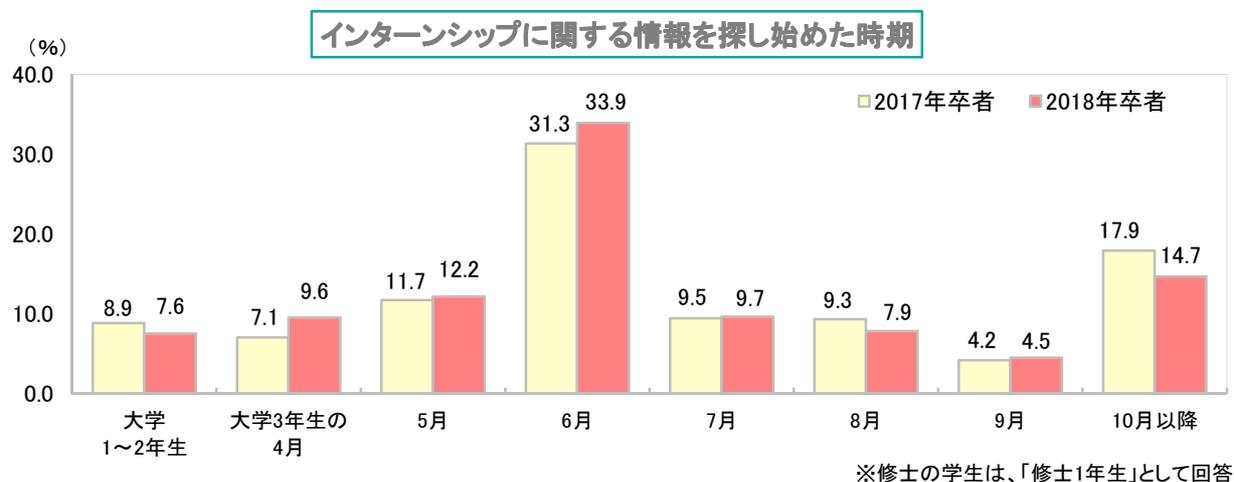
※最大5社まで回答(2017年卒者は最大4社まで回答)

2. インターンシップの情報を探し始めた時期

インターンシップに関する情報(募集企業)を探し始めた時期は「6月」が最も多く、前年調査より集中度が増した(31.3%→33.9%)。また、参加したインターンシップを知ったきっかけは今年も「就職サイト」が最多で、6割近くを占める(58.1%)。

就職サイトはインターンシップ情報を主軸に6月にプレオープンするものが多いが、2ページで見たように、インターンシップへの参加は8~9月を合わせた夏休み時期が最初のピークだったことから(合計31.6%)、6月に入ったら就職サイトで募集企業を探し始め、まずは夏休みの参加を目指すというのが王道の動き方と言える。

一方で、「10月以降」にインターンシップ情報を探し始めた学生は14.7%で、秋以降のインターンシップに向けて情報収集を始めた学生も一定数いたことがわかる。



3. インターンシップ先を探す際に重視した点

インターンシップ先を探す際の条件を 12 項目に分け、それぞれ重視した度合いを尋ねた。

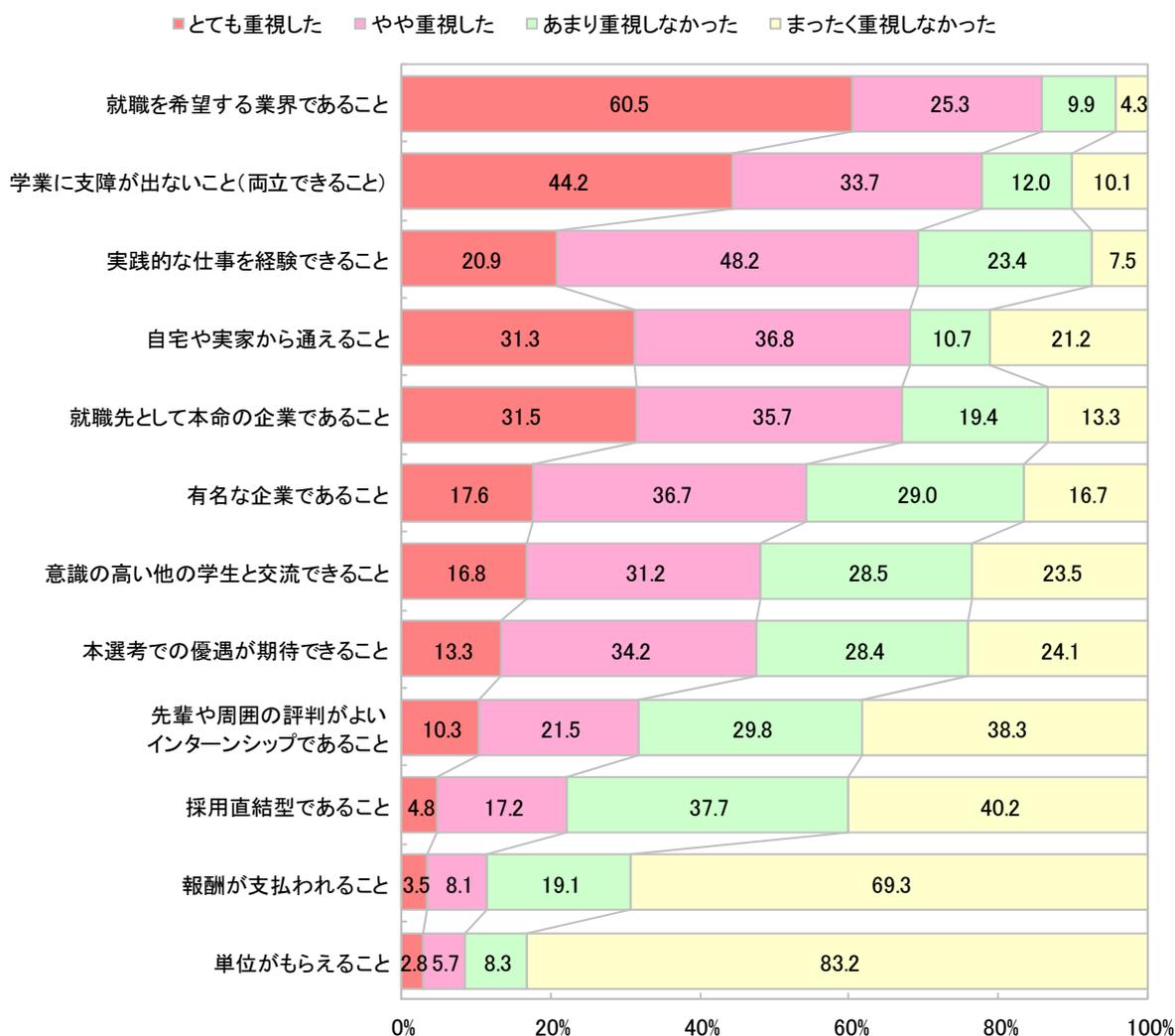
「重視した」と回答した人（「とても重視した」「やや重視した」の合計）が最も多かったのは「就職を希望する業界であること」で 85.8%。「とても重視した」に限って見ても 6 割を超え（60.5%）、インターンシップを、その先の就職活動を意識した「業界研究の場」と捉える学生が多いことがわかる。

次いで多いのが「学業に支障が出ないこと（両立できること）」で 77.9%。1 日以内のショートプログラムへの参加が半数強を占めていたが（2 ページ）、学業との両立のために短期間で負担なく参加できることを優先する学生は多いと見られる。

3 番目に「実践的な仕事を体験できること」69.1%が続くが、「とても重視した」の割合に注目すると、「実践的な仕事を体験できること」は 5 番目に下がり、重視度はそれほど高くない。

「就職先として本命であること」を重視した学生は 67.2%だったが、「本選考での優遇が期待できること」を「重視した」と回答したのは 47.5%。たとえ優遇が期待できなくても志望企業のインターンシップなら積極的に参加したいと考える学生の存在が確認できる。

インターンシップ先を探す際(申し込む際)に重視したこと



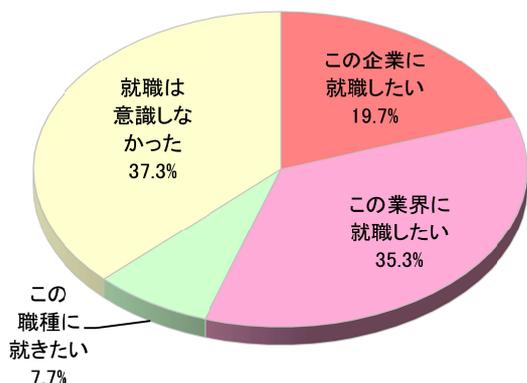
4. インターンシップ参加前後の就職志望度の変化

インターンシップに参加する前と、実際に参加した後とで、その企業への就職志望度がどう変化したかを比較してみた。参加前は「この企業に就職したい」は2割弱だったが(19.7%)、参加後は39.6%へと倍増。企業を知ることによって就職志望度が高まったと考えられる。

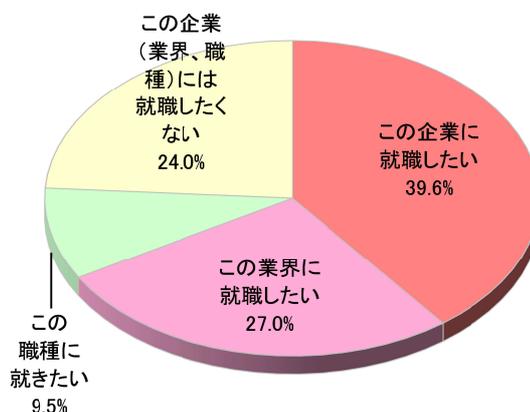
下表は、インターンシップ参加前の就職志望度ごとに参加後の志望度を集計したものだ。「就職は意識しなかった」と回答したもののうち、参加後に「この企業に就職したい」に変化したのは26.3%。「この業界に就職したい」は18.1%。インターンシップに参加することで志望企業や志望業界となった割合は合わせて44.4%だった。

その企業に就職したい理由を見ると、「職場の雰囲気がよかった」が68.8%で突出して多く、「仕事内容が自分に合っていると感じた」48.1%を大きく上回った。仕事内容よりも雰囲気重視という結果は、実践的なプログラムを経験する学生が少ないことに起因しているのだろう。

インターンシップ前の就職志望度

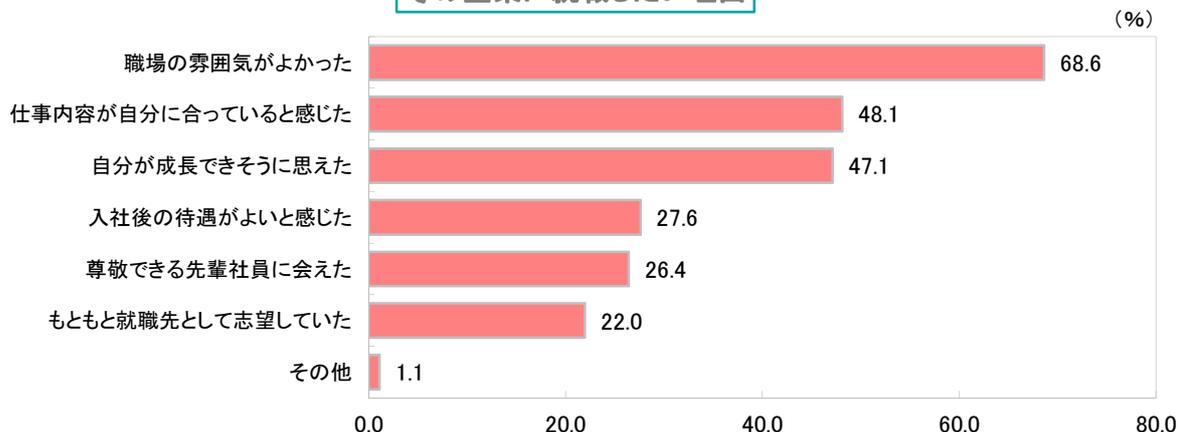


インターンシップ後の就職志望度



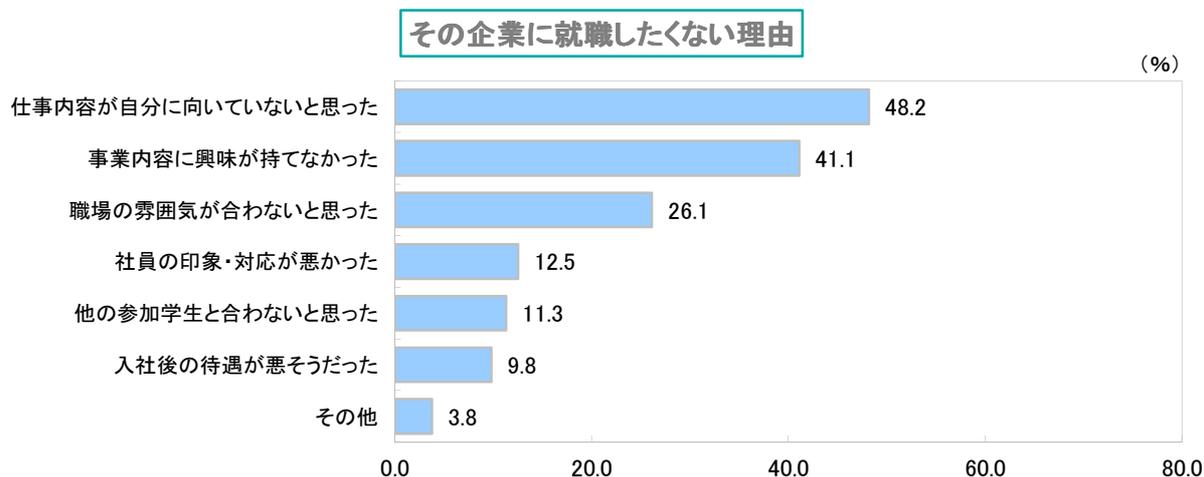
【インターンシップ前の就職志望度】	【インターンシップ後の就職志望度】				計
	この企業に就職したい	この業界に就職したい	この職種に就きたい	この企業(業界、職種)には就職したくない	
この企業に就職したい	82.7	6.8	1.8	8.7	100.0%
この業界に就職したい	31.5	50.8	3.1	14.7	100.0%
この職種に就きたい	31.1	12.3	42.9	13.7	100.0%
就職は意識しなかった	26.3	18.1	12.6	43.0	100.0%

その企業に就職したい理由



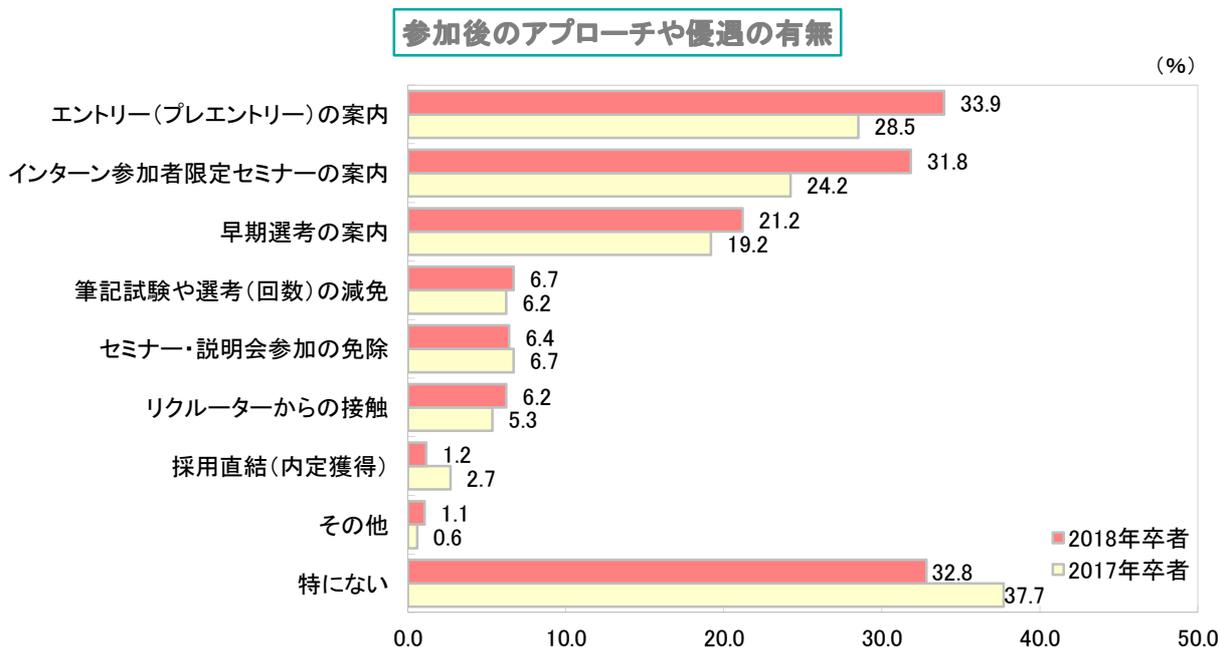
一方、その企業に就職したくない理由を見ると、「仕事内容が自分に向いていないと思った」が最も多く、48.2%。インターンシップの本質は、就業体験を通して適性を判断することにあるので、その意味ではインターンシップとしてきちんと機能していると言える。

より実務に即したプログラムを提供することで、ミスマッチの少ない、質の高い採用母集団形成につなげることができそうだ。



5. インターンシップ参加企業からの優遇策

インターンシップに参加した後に、企業からどのようなアプローチや優遇を受けたかを尋ね、前年調査の結果と重ねてみた。「特にない」との回答が37.7%から32.8%へと4.9ポイント減り、残りの7割近く(67.2%)が何らかのアプローチを受けていた。その中身を見ると、最も多かったのが「エントリー(プレエントリー)の案内」で33.9%と前年(28.5%)より5.4ポイント増えた。増え幅が大きいのは次の「インターン参加者限定セミナーや懇談会の案内」で、24.2%から31.8%へと7.6ポイント増えた。「早期選考の案内」(21.2%)は2ポイントの微増。選考優遇の割合は低く、アプローチをする企業の多くは、あくまで採用広報の一環と捉えている向きがあるようだ。



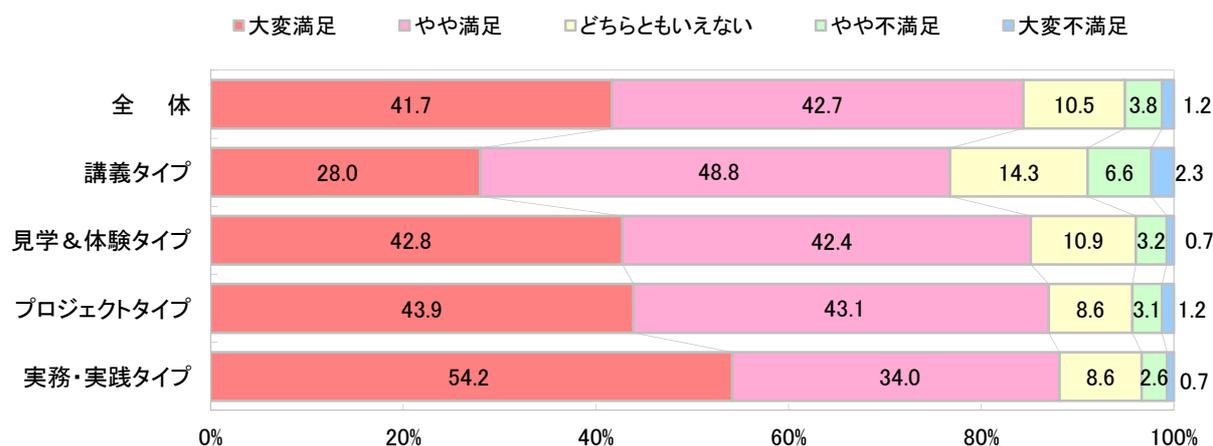
6. インターンシップの満足状況 (プログラム別/期間別)

インターンシップに参加した満足度を尋ねたところ、「大変満足」が41.7%と4割強、「やや満足」(42.7%)と合わせると84.4%と高い数字を示し、総じて満足度は非常に高かった。

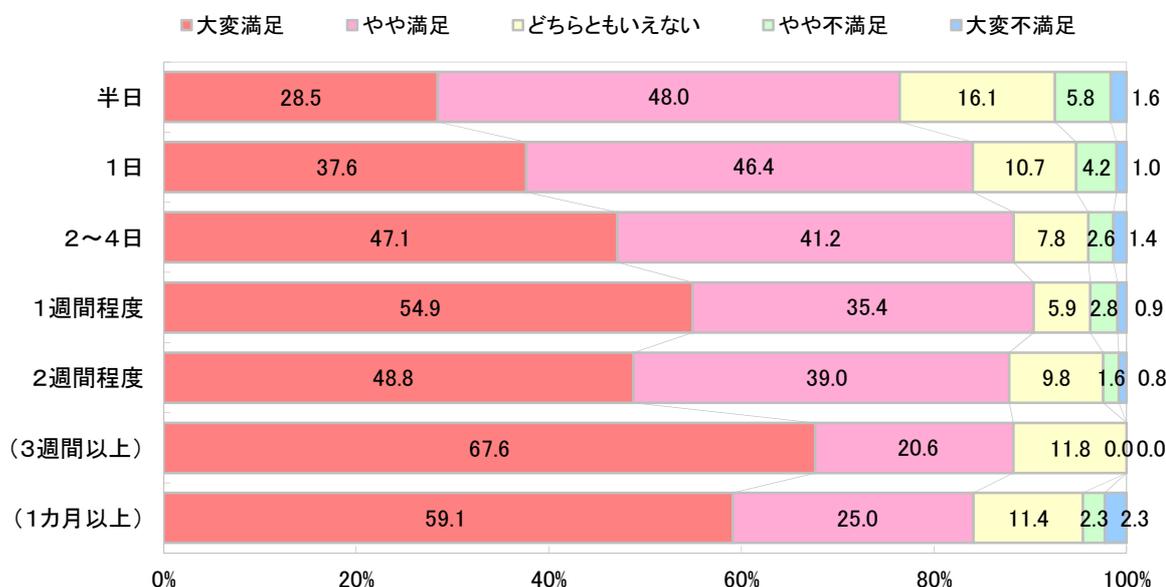
満足度を、参加したプログラム別、参加期間別に見てみると、満足度が高いプログラムは「実務・実践タイプ」で、54.2%が「大変満足」と回答。「やや満足」を合わせると9割に迫る(88.2%)。一方、「講義タイプ」は最も満足度が低く、「大変満足」は3割未満にとどまる(28.0%)。

参加期間別に見ると、「1週間程度」の満足度が高く、「大変満足」(54.9%)と「やや満足」(35.4%)合わせて9割を超える(90.3%)。逆に最も低いのは「半日」で、「大変満足」(28.5%)、「やや満足」(48.0%)を合わせて76.5%と、20ポイント近く低い。半日程度の極端に短いプログラムは講義タイプが多いことも影響しているだろう。「3週間以上」「1カ月以上」は参加者が限られるため参考値として見る必要があるが、いずれも「大変満足」の割合が高い。長期のインターンシップで、実務・実践タイプのプログラムが多いことが影響していると考えられる。

満足度<プログラム別>



満足度<参加期間別>



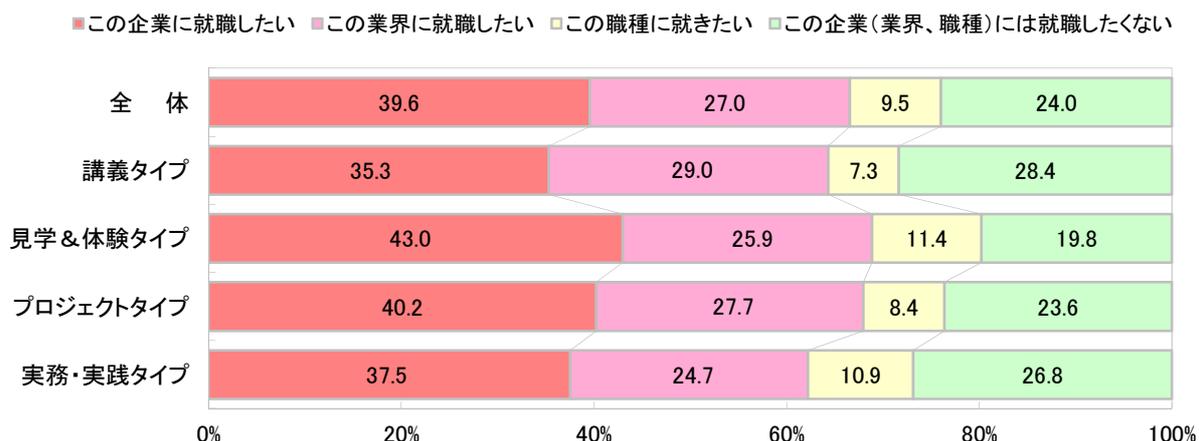
7. インターンシップ参加企業への就職志望度 (プログラム別/期間別)

インターンシップ参加企業への就職志望度についても、同様にクロス集計した。

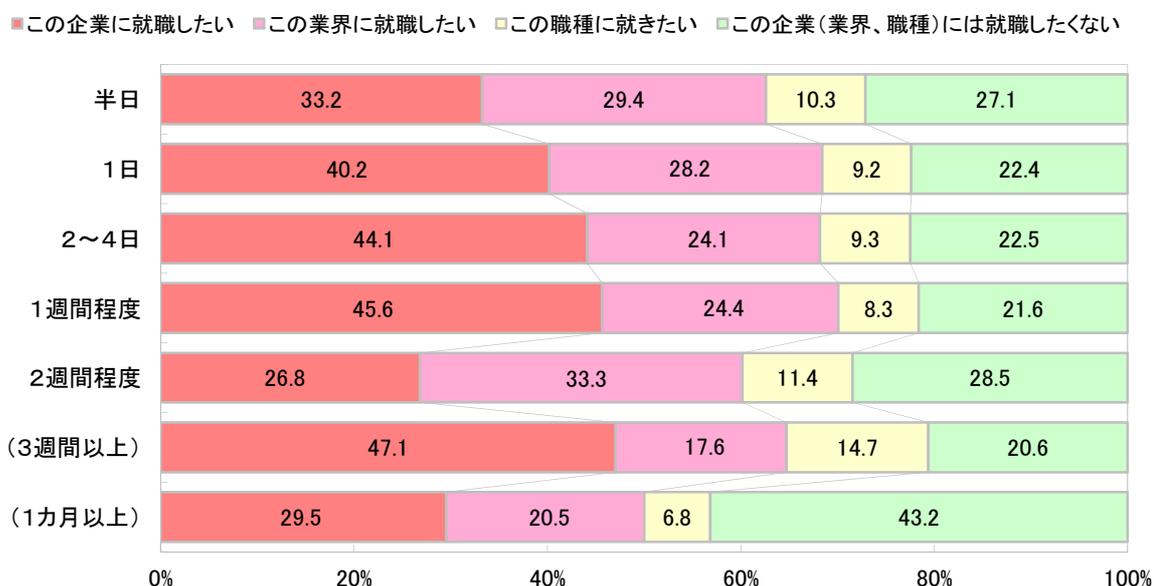
「この企業に就職したい」と回答した割合が最も高いのは「見学&体験タイプ」(43.0%)。実際に職場を見学することや、仕事を体験することで、その企業で働くイメージが明確になったのだろう。一方、最も低いのは「講義タイプ」(35.3%)で、7.7ポイント差。「講義タイプ」は、他のプログラムに比べ参加後の満足度が低いことが、就職志望度に影響していると考えられる。ただし「この業界に就職したい」は29.0%と他のプログラムよりやや高く、業務や業界に関する講義を受けたことで、業界には一定の興味をもつものの、その企業を志望するには至らないことが推測できる。

参加期間別では「1週間程度」が「この企業に就職したい」との回答が最も高く(45.6%)、「2週間程度」が最も低い(26.8%)。「1カ月以上」は「就職したくない」が4割を超えるが(43.2%)、長期間のインターンシップにより、企業や仕事の実情が見え、判断材料が増えたのだろう。適職を探る手がかりとなることはインターンシップの本来の目的であり、企業・学生双方にとって有益であると言える。

インターンシップ後の就職志望度<プログラム別>



インターンシップ後の就職志望度<参加期間別>



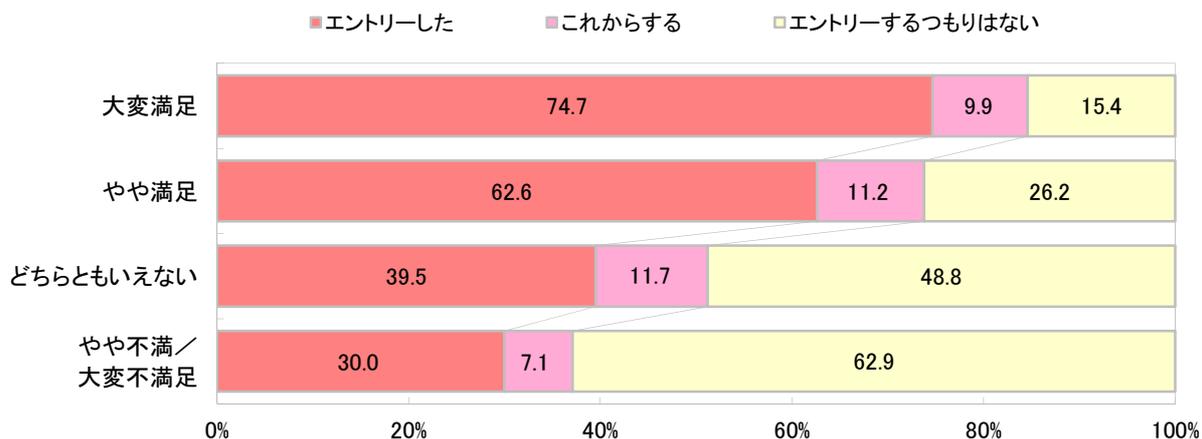
8. インターンシップ参加企業への就職エントリー状況

参加したインターンシップの「満足度」と「就職エントリーの有無」との関係性をクロス集計した。

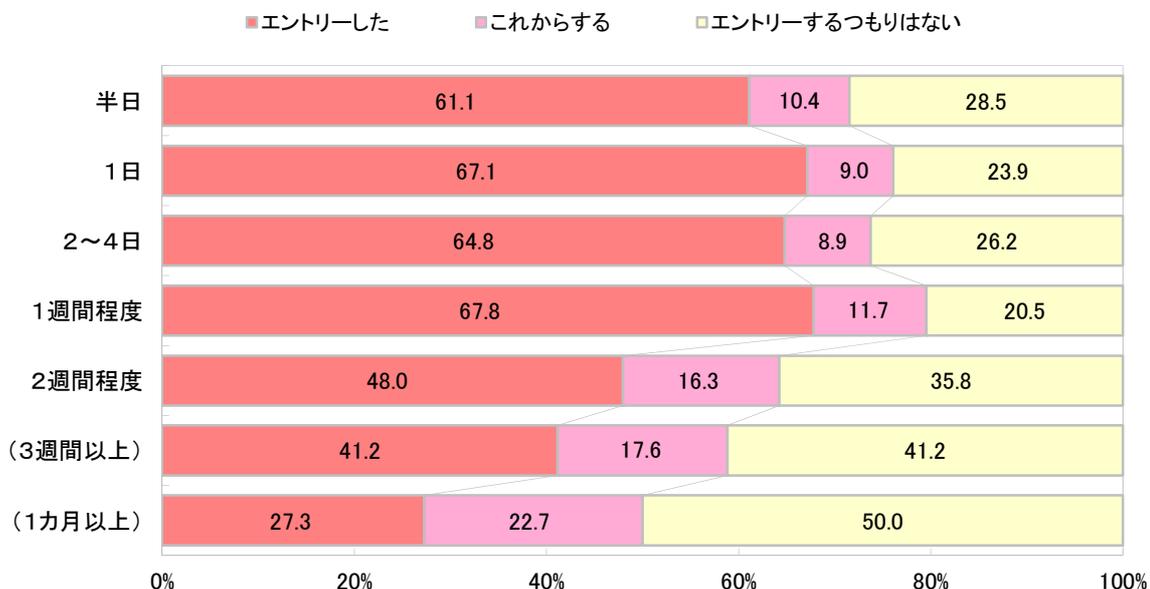
満足度が高いインターンシップほど、就職活動が始まってからその企業に「エントリーした」という割合が高く、相関関係が表れている。「大変満足」では「エントリーした」が74.7%と7割を超えており、満足度の高さがその後の就職エントリーに大きく影響することがうかがえる。逆に満足度の低い層（やや不満／大変不満）では「エントリーするつもりはない」は62.9%と6割以上に達している。

就職エントリー状況を「参加期間」ともクロスしてみた。「1週間程度」が「エントリーした」の割合が最も高く（67.8%）、「1日」（67.1%）、「2～4日間」（64.8%）が僅差で続く。「半日」は、インターンシップ自体の満足度は低かったにもかかわらず、「エントリーした」が6割を超えている（61.1%）。3ページで見たように、「半日」や「1日」の短期のプログラムは、就職活動開始直前に参加するケースが多いことも、こうした結果と関係ありそうだ。

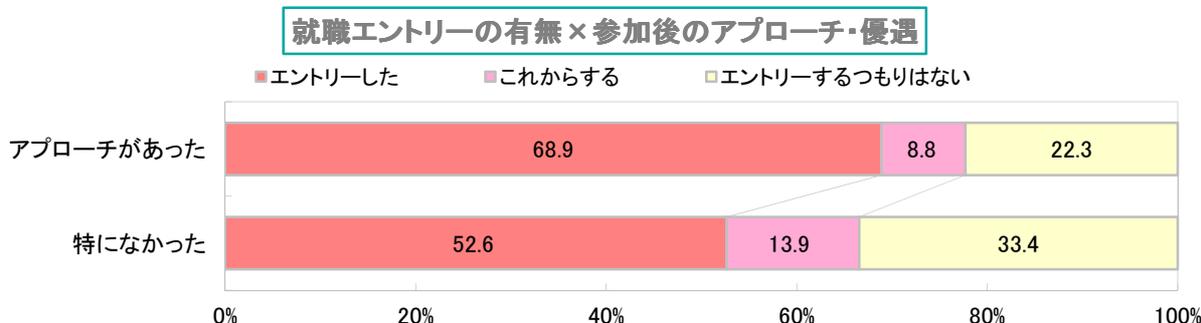
就職エントリーの有無×満足度



就職エントリーの有無×参加期間

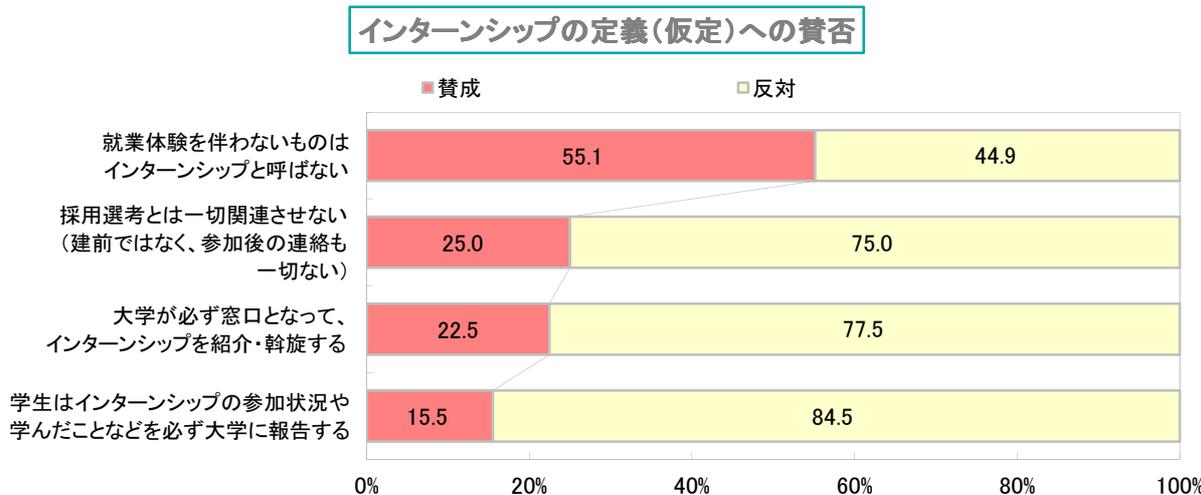


同様に「就職エントリーの有無」を「参加後のアプローチ・優遇」とクロス集計した。何らかの「アプローチがあった」場合、「エントリーした」は7割近くに上り(68.9%)、「特になかった」場合(52.6%)を大きく上回った(16.3ポイント差)。



9. インターシップのあり方への意見

インターシップが、もし次のように定義されるとしたらどのように感じるかを尋ねた。「就業体験を伴わないものはインターシップと呼ばない」ことについては、賛成(55.1%)と反対(44.9%)で意見が分かれた。一方、「採用選考とは一切関連させない」ことについては、反対(75.0%)が賛成(25.0%)を大幅に上回った。「大学が必ず窓口となって、紹介・斡旋」は反対が77.5%、「参加経験を必ず大学に報告」は反対が84.5%。大半の学生が、大学の積極的な関与については否定的な姿勢を示した。



■インターシップのあり方について思うこと

- インターシップと会社説明会とで分けるべき。 <文系男子>
- 就業体験でなくても、その会社について深く知ることができる内容ならインターシップと呼んでもいいと思う。採用選考と関連させる・させないは、会社の判断に委ねるべきである。 <文系女子>
- 採用と関連させるのは賛成だが、そのことについて、正確に表記してほしい。 <理系男子>
- インターシップに参加しなくても就活に不利にならないようにした方がいいと思う。 <理系女子>
- 各社自由に行えば良いと思う。選考に関わらないと行かない人も出てきてしまうはず。 <文系女子>
- インターシップは、自らのことなので大学が積極的に関わる必要は感じない。しかし、経験を報告することは、後輩にいい資料提供ができる可能性があるため賛成。 <文系男子>
- 大学が窓口になると、大学間で格差が生まれるのでやめてほしい。 <文系女子>
- インターシップを通じた採用は、企業も学生もミスマッチを減少できるので推進すべき。 <文系男子>

■参加した感想 (良かった点)

- 常に近くに社員さんがいて、いつでも質問・アドバイスを貰うことができた。 <1 日間/2 月/見学&体験>
- グループワークは、人事の方が良かった点と悪かった点を評価してくださり、今後の選考で役に立つと感じた。
<2~4 日間/11 月/見学&体験>
- 企業や仕事の説明のみならず、就職に向けたアドバイスや、若手社員の声を聞かせていただけたこと。
<1 日間/9 月/講義>
- グループワークで取り組んだ内容が実際にあった案件であり、会社でどのような仕事をしているのか具体的に理解できた。作っている製品を見ることで、会社が関わっている事業の広さを実感することができた。
<1 日間/11 月/見学&体験>
- グループワークを通して、業界への理解が深まり、また他大生との就活に対する情報交換の場にもなった。社員や内定者との座談会の時間が十分に与えられていて、就活をより意識するきっかけになった。
<1 週間程度/8 月/プロジェクト>
- 現場で働く研究員の方と話す時間を多くもたせていただき、かなり詳しい質問ができた。職場にそのまま入る形だったため、働くイメージが明確に持てた。
<半日/9 月/見学&体験>
- 1 週間参加することで、様々な事務の体験ができた点。また、始業時刻から参加することで、1 日の仕事の流れを体験することができた点。
<1 週間程度/8 月/実務・実践>
- 実際に営業職の業務フローを体感でき、それに対する現役社員の方からのフィードバックもありました。全体を通して、学生に企業を知ってもらおうという雰囲気が好印象でした。
<半日/2 月/プロジェクト>
- 学生のレベルが非常に高く、刺激になりました。また、社員の方との交流の機会が大変多く、本音ベースで営業職の方から技術職の方、若手の方からベテランの方までたくさん話を伺うことができた点。
<1 週間程度/11 月/プロジェクト>

■参加した感想 (不満に思った点)

- 座学でも学ぶことはたくさんあったが、現場の実践的なワークを多く経験したかった。働くイメージをより具体的に膨らませたかった。
<半日/8 月/講義>
- グループワーク中心の内容で、あまり実務がわからなかった点。
<1 週間程度/1 月/プロジェクト>
- どちらかというと一方通行で、企業から説明を受けたり作業したりという形だったので、社員の方ともっと近い距離で会社や業界のことについてお話ししたかった。
<半日/2 月/講義>
- 授業を休んで参加しているのに、ほぼアルバイトのような雑用を任される日があったこと。
<1 週間程度/12 月/講義>
- プログラムが決められておらず、手持ち無沙汰なときがあった。
<1 週間程度/8 月/見学&体験>
- インターンシップを仕切る人事が一人か二人しかいなかったため、学生をきちんと見れておらず、最終日にあった学生一人ひとりに対するフィードバックの中身がかなり薄かった。
<1 週間程度/9 月/プロジェクト>
- 基本的に放置されるので、1 日中参加者とグループディスカッションをしていて新鮮味が感じられませんでした。インターン後の成長はあまり感じなかったです。
<2~4 日間/2 月/プロジェクト>
- インターンシップというより会社説明会だった。
<1 日間/10 月/見学&体験>
- 発表する日の前にインターンシップの日程とは別にグループで集まって発表の準備をしなければならなかった。インターンシップ内で発表する準備時間をとってほしかった。
<1 週間程度/9 月/プロジェクト>
- 人数が多すぎて、雑に扱われていると感じた。また、グループワークも中途半端なものだったので、企業についての理解を深めることができなかった。
<半日/12 月/実務・実践>
- 班につくサポート役の社員の入社歴がバラバラで、学生の理解度もそれに準じてしまうこと。
<1 日間/1 月/プロジェクト>